



高宮小学校の授業に学生が協力（滋賀県立大学「おとくらプロジェクト」）

滋賀大学

学生×フードバンク

大学の教職員や学生らの各家庭で余ったり不要になった食品を、大学内にある食品庫に保存し、食品を必要とする学生に配布しています。

地域の「フードバンクひこね」の活動にボランティアとして参加し、食品庫で配布する食材の供給を受けたり、自治会や農家から不要になった食材や規格外野菜の供給も受けています。

地域で余った食品を学生に配布



関係者の声

食品を寄附した
農家さん

サツマイモが獲れすぎて、廃棄せざるを得ないところを、フードバンクに寄附しました。学生たちに喜んで食べてもらったら、とても嬉しいです。



フードバンクを
利用した学生

コロナ禍で特に収入が厳しい中、食費などに困っていたので、本当に助かりました。



学生にインタビュー！ 地域の「もったいない」を減らしていきたい

● 取り組みを始めたきっかけは？

中井さん：大学の先生の紹介でフードバンクの取り組みに参加したのがきっかけで、自分たちもそういった取り組みを大学内でできないかと思い、始めました。

● どんな思いで活動に取り組んでいますか？

中井さん：大学生である私たちができることは、企業や政府に比べるととても小さなことかもしれませんが、私たちのできるこ

とを通して、少しでも社会を良くしたいという思いで活動しています。

土田さん：今、自分たちが暮らす世の中では、食べても問題のない食品が知らず知らずのうちに捨てられています。微々たるものかもしれませんが、この活動を通して、少しでも「もったいない」を減らしていけたら良いと考えています。

● 今後の活動への思いを聞かせてください

中井さん：私たちはこれからも、活動の中で市民の皆さんにアプローチしていきたいと思っています。もし活動に共感していただければ、ぜひご協力していただけると幸いです。

土田さん：食品を必要とする人が、周りに気にせず、気軽にもらいに来ることができる環境を作りたいです。



地域に開かれた大学 ～学生の学びが地域や社会を明るくする～

市内には、国公立3つの大学（滋賀大学、滋賀県立大学、聖泉大学）があり、約6,000人の学生（大学院生を含む）が学んでいます。“生涯学習”や、社会人や地域の人と一緒に学べる“リカレント教育”の推進など、大学も多様な形に発展しています。

地域の活性化や課題解決に向けて、学生が授業やサークル活動を通して地域に関わり、さまざまな取り組みに挑戦しています。今回の特集では、市内3大学それぞれの取り組みを紹介します。

問 企画課 ☎ 30-6101 FAX 22-1398



滋賀大学



滋賀県立大学



聖泉大学

リカレント教育 ー未来社会を支える人材育成ー

滋賀大学では、社会人の皆さんのスキルや専門性を高め、能力を最大限発揮できるようさまざまなプログラムを用意しています。

彦根商工会議所と連携して、彦根城もテーマに含めた「世界遺産学」を開講したり、学生と教員がテニスや野球を指導する教室を開くなど、大学が持つ知識・技術を広く地域の皆さんに提供しています。



Information 大学情報

問 国立大学法人滋賀大学
産学公連携推進課
(馬場一丁目1-1)
☎ 27-1141
FAX 27-1431



この近江の地で、社会課題解決に資する知の創出と変化する新しい時代を牽引する人材育成に取り組んでいます。積極的に社会連携を推進しており、彦根を拠点とする大学発ベンチャー企業の創出や、自治体経営塾による行政改革促進のほか、彦根市観光に関する経済効果測定の実施など、「知の拠点」として地域と共に発展してまいります。

(産学公連携推進機構 社会連携センター長 横山 幸司さん)